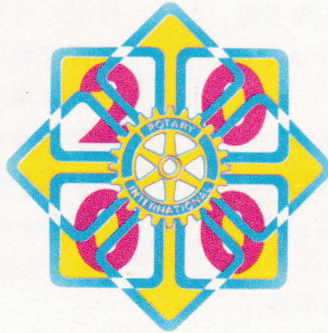




THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

ROTARY 2000:
ACT WITH
CONSISTENCY
CREDIBILITY
CONTINUITY



ロータリー2000:

活動は—堅実、
信望、持続

1999~2000年度 国際ロータリーのテーマ

新世代活動月間

第610回 平成11年 9月17日(金)

〔本日のプログラム〕

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 点 | 鐘 |
| 2. ロータリーソング | |
| 【それこそローター】 | |
| 3. 食 | 事 |
| 4. 会長の時 | 間 |
| 5. 幹事報 | 告 |
| 6. 委員会報 | 告 |
| 7. 9月セレモニー | |
| 8. 会員卓話 | |
| | 宮原建樹君 |
| 9. 点 | 鐘 |

次回予告

★ 9月24日(金)
クラブフォーラム

★10月 1日(金)
職業奉仕プログラム
10月セレモニー

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週金曜日(12:30~13:30)	会長	福井 輝文
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	梶田與之助
事務局	宮崎郡佐土原町大字下那阿3887-17	幹事	恒吉 正志
	☎880-0212	会計	林 厚雄
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会報委員長	池田 仁志

第609回例会記録 (1999. 9. 10)

☆会長の時間

会長 福井 輝文 君

皆様 今晚は
第609回の『観月会』夜間例会です。

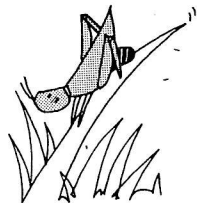
先週のガバナー公式訪問は皆さんのご協力で、私年度の最大の行事を無事終了することができ、ホッと一息ついているところです。

いろいろと本当にありがとうございました。

あの場で勉強をしましたことを、今後役に立てていきたいと考えます。

井ノ上ガバナーが言われました、「ファイヤーミーティング」を是非各部門で実行していただきたいと思います。

今夜はここ、サンホテルフェニックスのスカイバイキングで時間の許す限り、楽しく、愉快地に、過ごしましょう。



☆幹事報告

幹事代理 吉田 康一郎 君

皆様 今晚は
本日は恒例の観月会です。

今年は場所を替えて、此处、サン・ホテルのスカイレストランにてバイキング料理で楽しみたいと思います。

9時迄、充分飲んで食べて、お過ごし下さい。

1. 例会変更及び休会通知は、週報にて、ご報告致します。

① 9月21日(火)は「観月夜間例会」

のため、時間 18:30~

場所 ホテルオークマン45

「グランシャリオ」

に変更

② 9月22日(水)は「早朝例会」の

ため、6:30~友愛の広場清掃

7:00~例会

宮崎北 RC

③ 9月24日(金)は「観月家族会」

の為、時間 18:00~

場所 藤公園パークステーション

宮崎西 RC

④ 9月27日(月)は「観月会」の為

時間 18:30~

場所 ホテルプラザ宮崎

宮崎南 RC

⑤ 9月30日(木)は「早朝例会」の

ため、時間 6:00~

場所 沖水川河川敷

都城中央RC

2. 宮崎北ロータリークラブ
30周年記念式典参加について

下記の方々を一応、登録致します。

(1)式典祝賀会登録者名

福井 輝文 君	岩切 正司 君
吉田 康一郎君	伊東 忠寛 君
林 厚雄 君	徳丸 彰一 君
山脇 忍 君	江崎 富治 君

(2)記念ゴルフ登録者名

福井 輝文 君
加藤 仙之 君
梶田 與之助君
吉田 康一郎君

詳細については、後ほど連絡致します。

☆出席報告

委員長 柳 田 光 寛 君

会 員 数	26名
例 会 出 席 者	19名
(家族出席者)	9名
出 席 率	73%
メークアップ者数	3名
修正出席率	85%
欠 席 者 名	恒志、林(卓)、宮本、神詩

家族の出席が少ない中で、郡司君一家の出席に対して、大変、感謝申し上げます。

☆職業奉仕委員会

委員長 伊 東 忠 寛 君

『第8回全国ボランティアアフェスティバルみやざき』参加申込について

先々週の例会にて、申しあげました上記申し込みについて、下記の会員を登録いたしました。

記

伊東 忠寛 (職業奉仕委員長)
梶田與之助 君 (" 副委員長)
徳丸 彰一 君 (社会奉仕委員長)
江崎 富治 君 (国際奉仕委員長)
富高 秀典 君 (新世代 委員長)

以上の5名です。

よろしくお願い致します。



Happy Voice

誕生の記念品 ありがとうございます
た。

61歳の誕生日を迎えましたが、これからも元気で、ロータリアン精神を忘れずに頑張っていきたいと考えております。

宮本 信吾



ある東北地方の小都市に、おもしろい試みをしている学校がある。数年前に誕生したその短大では、ボランティア論とボランティア実習が必修なのだ。名称はどうあれ、ボランティア論などの授業が開かれている大学は近年増えた。しかし、この短大のように講義も必修、実習も必修というのは極めてまれだ。

一般にボランティアの振興、福祉教育、社会貢献教育に反対する人は少ない。ただ、学校という場で実施することについては、識者の意見は分かれるだろう。「ボランティアの振興など、公的責任で行うべき社会福祉をあいまいにし、安上がり福祉を進めるものだ」「ボランティア活動の実績を評価することは、例えば進学に有利になるということだけで行う学生も出てくるし、自発生というボランティアの理念をネジ曲げ、強制しようというもので、偽善者を増やす」一。このように主張する評論家も多い。当の学生もそう思うかもしれない。もちろん、これらに対する異論もある。

先の短大では看護学科、介護福祉士の養成過程でもある人間福祉科、それに地域社会学科の三コースがある。卒業後は人の命や生活を預かり、様々な課題を負った人々を援助する仕事に就く。

他者に対する理解力や共感力、倫理性そして正義感や責任感が求められる。

独り善がりの関心しか持たない人や、偏差値人間では困る。また、地域社会学を学ぶのであれば当然、理論や理屈だけでなく、自分たちの住む街についての観察力、フィールドワーク力が必要だ。

その短大の学生が一年間、地域でボランティア実習をするとどうなるのか。様々な領域のボランティア実習をした学生の全記録、受入れ先の評価を丹念に読んだ。始める前の感想、体験を経た上での気持ちや、内面的な変化をたどることができる。担当講師として、いつしか点数をつけるのを忘れた。

ボランティア先で「学校でボランティアを義務づけているのはおかしい」と大人に説教され、「そうではない」と反発している学生。彼らは福祉の現場を見て、そして最後にボランティア実習を終えて、何か自信を持ち、自分の入学した短大が地域に知られていく様を肌で感じた。

今後学ぶ専門的な勉強の必要性も感じた。読んでいて「理屈は経験の前で吹っ飛ぶ」と思った。

この短大は大きな実験をしていると思う。そこに学ぶ者は、偏差値や要領の良さでは得られないものを確実に得ている。